

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492200710	事業の開始年月日	平成29年4月1日
		指定年月日	平成29年4月1日
法人名	株式会社へいあん		
事業所名	グループホーム「へいあん片瀬鵜沼」		
所在地	(〒251-0032) 神奈川県藤沢市片瀬390-15		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員 通い定員 宿泊定員	名 名 名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計 ユニット数	18名 2ユニット
自己評価作成日	令和8年2月18日	評価結果 市町村受理日	令和8年7月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

*小規模多機能型居宅介護を併設しており、在宅から施設入所までの間を補完するようなサービスを提供できます。
*市の防災対策事業に協力し、緊急時の一時避難場所「津波避難ビル」の指定を受けております。
*利用者様の体調の変化を早期発見し対応できるよう、主治医・医療連携看護師・薬剤師との連携を密に行っております。
*ご家族とは、介護アプリにて日々のご様子を配信し併せて定期的な報告書の送付や電話・LINEでの相談やご意見を頂いております。
*重度介護においては、介護用品・環境面でも対応できるよう「看取りケア」の体制を整えております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和8年4月24日	評価機関 評価決定日	令和8年7月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
当事業所は、江ノ島電鉄「柳小路」駅から徒歩5分の大型スーパーマーケットが隣接する利便性のよい場所に立地する2ユニットのグループホームである。鉄骨3階建ての建物の2、3階が当事業所、1階には同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。管理者は併設の事業所の管理者を兼務している。両事業所兼務職員が複数在籍していることもあり、各種会議や避難訓練等を合同で実施するなど、日頃から協力しあっている。
【理念実現に通じる利用者の思いやペースに合わせたケアの実践】
無理に何かをしてもらうのではなく、入居後もこれまで当たり前のようやっていた洗濯物畳み等の家事や好きなことをごく自然に継続してできるよう支援している。職員が日頃から継続して実践する利用者個々のペースに合わせたケアや、その方が大切にしてきたことを大切にして気持ちに寄り添うケアにより、事業所が事業所理念どおりの「毎日笑顔になれる場所」になっている。
【美味しく変化にとんだ食事の提供】
月の前半20日間は3食とも業者による調理済み食材を提供するが、毎月行事食やご当地グルメメニューもあり楽しめる。月の下旬10日間は、法人内の食品会社のシェフが作る、より安価で、より美味しい冷凍レトルト料理を提供し、さらに正月や敬老の日、クリスマス等の行事食もこの会社の料理を提供している。また、利用者と一緒にカタログを見て食べたいものを注文したり、寿司やハンバーガー等を購入する等、利用者が楽しめるよう変化にとんだ食事を提供している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん片瀬鵜沼」
ユニット名	ユニット1

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

事業所名	グループホーム「へいあん片瀬鵜沼」
ユニット名	ユニット2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をミーティングの際に唱和し、内容を共有している。事業所独自の理念は作成できていない。	法人及び事業所の理念は事務所に掲示して職員に周知している。管理者は、職員が日頃から継続して実践する利用者のペースに合わせたケア、その方が大切にしてきたことを大切にして気持ちに寄り添うケアにより、事業所が事業所理念どおりの「毎日笑顔になれる場所」になっていると考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、近隣保育園との交流会を行っている。	自治会「片瀬弥生会」に加入しているが、現在回覧板等は回ってこない。管理者は、2月に開催された片瀬地域包括支援センター主催の「認知症になっても自分らしく地域で暮らすために」の意見交換会で、地域の方々と交流する機会を得た。これをきっかけに、今後は一時的に途絶えている自治会との交流や活動に参加する予定である。年1回、近隣の保育園児達が来所して、利用者と一緒に歌を唄ったり、手作り作品の交換等をしている。月2回、傾聴ボランティアの受け入れを開始した。傾聴ボランティアの受け入れを開始し、その方が3月には日本舞踊を披露してくれた。	管理者不在時期等もあったことで一時的に地域との交流が途絶えていました。地域と繋がり、地域の一員として暮らし続けられるよう機会をとらえた積極的な交流を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に来所された方や電話での問い合わせに丁寧に対応し、ご家族のお話を傾聴することで認知症の理解の一端を担っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	運営推進会議出欠のご案内を書 面にて定期的にお送りしている が、欠席が多く意見を頂く機会 がほとんどない。	運営推進会議は1階の小規模多機能型居宅介護事 業所と合同で2か月に1回、偶数月にフロアリビ ングで開催している。メンバーは、利用者、家 族、片瀬地域包括支援センター職員、市の介護 保険課職員、自治会長、民生委員だが、自治会 長と民生委員については連絡先がわからず開催 を知らせていない。会議開催前には家族にはSNS で、その他メンバーには書面で、出欠の回答と 意見を求めている。議事録を作成して玄関に置 いている。地域包括支援センター職員から2月の イベント講座を紹介され、管理者が出席して地 域の方々との交流に結び付いた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	藤沢市グループホーム連絡会に 所属し、コロナ対策の共有や相 談、防災対策事業では「津波避 難ビル」の指定を受ける等、協 力関係を築いている。	市の介護保険課には運営推進会議議事録を郵送 し、介護保険要介護認定更新手続き等のために 窓口に出向いている。電話で相談ごとのやりと りをすることもある。市の防災対策事業に協力 し、緊急時の一時避難場所「津波避難ビル」の 指定を受けている。藤沢市グループホーム連絡 会に所属し、啓蒙活動の映画「オレンジラン プ」を視聴してきた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象 となる具体的な行為を正しく理解するととも に、身体的拘束等の適正化のための指針の整 備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修 を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体 的拘束等をしないケアに取り組んでいる	可能な限り施錠をしない取り組 みを行っている。 研修内で指針の整備、チェック リストによる自己点検を行い、 ケアの質の向上に繋げている。	身体拘束適正化委員会は、1階の事業所と合同で 運営推進会議の後に同メンバーで2か月に1回偶 数月に開催している。フロア出入口の扉の施錠 やセンサーマット使用の是非等、身体拘束に当 たらないう話合っている。向精神薬等につい ては、医師と相談しながら減薬に結び付けるこ ともある。議事内容は各フロアリーダーにSNSを 活用して伝え、リーダーが連絡ノートや申し送 り時等で職員に伝達している。議事録は事務室 に置いている。各フロアの扉は階段が近いので 通常は施錠しているが、食事時間やフロアに職 員がいる際には開錠している。年2回、法人が提 供する身体拘束に関する動画研修を全職員が視 聴している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて虐待について学び、理解を深め防止に取り組んでいる。 虐待を発見した場合は速やかに管理者に報告が上がるよう周知している。	虐待防止委員会は年2回開催し、管理者、各フロアリーダー、介護支援専門員及び看護師が出席して意見交換している。議事録は全職員に回覧して、本社に報告している。年1回、虐待防止チェックリストを用いて自己点検をしている。年2回、法人が提供する虐待防止に関する動画研修を全職員が視聴している。管理者はきつい言葉かけを耳にした場合は職員に声をかけ、職員同士でも互いに声をかけあっている。管理者は「褒め合いましょう」と職員に伝えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人に関しては利用している入居者様もあり、制度として理解しながら活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	直接口頭で十分な説明を行い、理解を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での聞き取りは出来ていないが、来所した家族の方と相談し意見をいただきながら運営に反映させている。	家族は、法人がペーパーレス化対策として導入した介護アプリに入力される日々の状況（体温、血圧、排泄や入力状況等）や日々の写真をSNSの活用によりタイムリーに確認できる。家族には、面会に来所した際やメール・SNSを通じて意見や要望を聞いている。入院先から戻るタイミングで通常のベッドから介護ベッドに切り替えたいという家族の要望を受けて対応した。就寝前に本人の声が聞きたいという家族の要望には、本人が所有するスマートフォンから職員が毎晩家族に電話をかけて本人に繋ぐ支援を継続している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、メール等で職員の意見を聞き、運営に反映させている。	現在、フロア会議は不定期に開催するにとどまり、各フロアに置く申し送りノートやメール・SNSを活用して適宜職員に情報を伝えている。正職員には年2回、評価面談を行い、その際に思いや意見も聞いている。パート職員についても年2回の契約更新時の面談で思いや意見を聞いている。入浴介助のない日を設けて利用者とゆっくりコミュニケーションが取れる時間を作ったり、利用者の状況を考慮して3階の遅番の勤務時間を30分前倒しとする等、職員の意見を反映させている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特定処遇改善加算の取得など、評価や資格などによって向上心をもって働けるよう制度をつくっている。 法人では人事評価制度を採用している他、働き方改革として有給休暇や夏季休暇の取得促進に取り組んでいる。	各フロアにスタッフルームがあり、適宜休憩を取ることができる。事前申請することで有給休暇が取りやすい。有給休暇とは別に正社員には年9日の夏季休暇があり、年10日程度休むことができる。新年度からは制度が変わり、夏季休暇日数は減るが公休が増え所定労働時間も短くなっている。法人主催の新年会や日帰りの社員旅行に職員が参加している。介護福祉士には資格手当が支給され、介護支援専門員は時給に反映されている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や初任者研修を受講してもらい、基礎的な知識を見に付けてもらっている。 法人が推奨する研修の受講は勤務扱いで、受講料・交通費は法人負担または補助がある。	法人の年間研修計画にもとづき、全職員が毎月指定された動画研修を受講している。就業時間内に視聴できず自宅等で視聴した場合は研修に要した時給を支給している。管理者は受講状況を確認し、必要に応じて受講を促している。管理者研修や認知症介護実践者研修、介護支援専門員更新研修は受講料や交通費を事業所が負担している。介護職員初任者研修や介護福祉士実務者研修の受講料は半額を事業所が負担している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	藤沢市グループホーム連絡会に所属し交流会に参加する機会を設けている。 法人内ではミーティングを通じた交流・情報交換・業務改善会議を実施している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開始の段階で自宅や施設、病院に訪問し、きちんと要望を聞きながらも、ADL等の状態の把握にも務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前のアセスメントにて、家族にも同席していただき、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの中で入所の必要性(小規模含め)を検討し、支援内容を見極め相談・情報の共有に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人主体のケア方針にて計画書を作成し支援を行っている。残存能力を維持・発展させる支援をカンファレンスを通じて考えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	LINEやメールを活用し、業務連絡だけでなく日々の様子を伝えながら関係性を築いている。タイムリーに写真もお送りしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪の制限を減らし、関係性が切れないよう支援づくりをしている。	家族が面会に訪れる機会が比較的多く、主に居室で対応している。手紙や電話の取り次ぎを支援している。毎晩職員が本人のスマートフォンから家族に電話をかけて取り次ぎ、家族との会話を楽しむ方がいる。毎日当たり前のように洗濯物畳みや食器拭きをする方、事業所が用意したドリルを見て算盤に集中する方、事業所が定期購読する新聞を読む方、趣味のスクラッチアートを楽しむ方等もいる。家族が持参するフルーツや佃煮等を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの相性を勘案しながら、関わりあえる関係性を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、メールなどで連絡を取りながら相談支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を踏まえながら、日々の生活を送っていただくよう努めている。	利用者の思いや意向は、日々の関わりの中で把握しているが、特に1対1になる入浴時や夜間帯に聞くことが多い。意思疎通が難しい方は、家族からの情報や顔の表情や仕草から推測して対応している。洋服の好み等を二者択一で確認することもある。職員は、把握した利用者の思いや意向を申し送り時や日々の会話の中で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境や本人の暮らし方を踏まえ、消灯時間なども含めて対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護アプリに日々の情報を集約し一日の過ごし方・心身状態を共有し現状の把握に努めている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを元にカンファレンスを行い、利用者・家族の要望・医療関係者の助言を参考に作成している。	介護計画は、短期目標6か月、長期目標1年で作成して半年ごとに見直している。介護支援専門員が毎月モニタリングを実施し、各フロアではその結果をもとに連絡ノートで状況や対応策を周知して日々のケアに活かしている。カンファレンスの時間が取れないため、申し送り時に利用者のケアについても話し合っている。作成する介護計画には、利用者や家族の意向及び医療関係者の意見や助言を反映している。職員は、個別ファイルに綴った介護計画書を確認して、介護計画に沿ったケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護アプリに入力(写真・動画含め)し、職員間で情報を共有している。 またスタッフノートも活用し、検討や実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズによって柔軟な対応を行っている。 法人の調理部門が調理した食事を提供している。(半月分昼食)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や包括の繋がり、関わりあえる機会を増やしていきたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力連携病院を確保しているが、病院受診は本人や家族の要望に応じて対応している。	入居前からのかかりつけ医の月2回の往診を受診している利用者が2名いる。そのほかの利用者は協力医療機関の医師による月2回の訪問診療を受診している。専門医受診は家族が対応している。聞き取った受診結果は経過記録に記録し、薬の変更などは申し送りノートにも記載して周知している。法人の看護師が週1回、来所して利用者の健康管理を行っている。褥瘡の処置が必要な利用者については、ほぼ毎日来所して対応している。訪問歯科医が月1回、来所して契約した利用者の治療や口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師と連携を図り、介護スタッフとの情報共有もおこなっている。医療観点からのアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、ご家族の同意を得て医療連携室の担当者と生活状況・身体状況の情報交換を行い、早期退院支援に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化の指針」「看取りに関する指針」の説明・同意を得ている。終末期には後悔のない看取りが行えるよう家族の同意を得て情報共有しながら支援している。	入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」及び「看取りに関する指針」を説明して同意を得ている。重度化すると、医師が家族に状況を説明して、「看取り介護の同意書」「ターミナル時の希望書」を受領したうえで看取り介護計画を作成して看取り介護を行っている。今年度の看取り実績は3名である。看取り後は管理者が職員を労っている。毎年看取りに関する研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の説明を定期的に行い、終末期が近くなってきた場合は注意点をその都度伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。 災害時の対応を訓練している。 非常食は消費しながらローリングを行い、備蓄品の確保に努めている。	6月に昼間の火災を想定した抜き打ち避難訓練を小規模多機能型居宅介護事業所と合同で実施した。3月にも昼間の火災想定で総合避難訓練を実施し、利用者も一緒に防災頭巾を被って避難した。洪水浸水区域に指定されているが、利用者が階段を上がることで自体にリスクがあるため、あえて垂直訓練は行わず、その場に待機して救助を待つ訓練を行っている。備蓄品リストがあり、飲料、食料の備蓄は職員を含めて3日分を確保している。BCP訓練は地震・津波想定の上訓練を実施し、職員間で話し合って報告書を出してもらった。年2回、全職員がBCP（業務継続計画）関連の動画研修を受講している。	避難訓練を行っていますが、夜間想定での訓練が行われていません。万一のためにも夜間想定での訓練を期待します。また、今後地域との関係を再構築することで、近隣の協力が得られるようになることを期待します。さらに、減災対策として、家具の転倒防止対策を施していただくことを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の個性や人格を尊重し、その方に合った声かけや対応を行っている。 職員は接遇や法令遵守、個人情報保護に関する研修を受けている。	職員は、プライバシー保護や倫理及び法令順守に関する動画研修を受講している。利用者については、尊厳の念をもって常に「お客様」と表現している。呼称は名字に「さん」付けとしている。フロアで利用者の話をする際にはインシヤルで会話している。部屋での排泄介助の際には、通りに面した窓のカーテンを閉めている。リビングで介護アプリに入力したり記録を書く際には、利用者から見えないよう配慮している。個人情報を含む書類は施錠できるスタッフルームの中のキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手く思いを伝えられない方にも、二択で意見を聞いたり傾聴したりと可能な限り自己決定できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースとその日の体調に合わせ、散歩やレクの参加含め本人の希望に可能な限りこたえられるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や衣服など、その方の好み・季節に合った身だしなみが出来るよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合わせて食事を楽しめるようなイベント食や手作りおやつを行っている。 季節のイベント食では社内食品部門を活用し、彩り良く食欲が沸くようなメニューを提供している。	月の前半20日間は3食とも業者による調理済み食材を提供するが、毎月行事食やご当地グルメメニューもあり楽しめる。月の下旬10日間は、法人内の食品会社のシェフが作る、より安価で、より美味しい冷凍レトルト料理を提供している。3食ともご飯と汁物は職員が作っている。パン食にすることもある。さらに、正月や敬老の日、クリスマス等の行事食等も法人内の食品会社に発注して提供している。また、利用者と一緒にカタログを見ながら食べたいものを注文する機会を作ったり、寿司やハンバーガー等を購入してきて皆で楽しく食べる等、変化にとんだ食事の提供をしている。利用者は下膳やテーブル拭き、お盆や食器拭きを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに水分量や食事量を介護アプリに入力し健康管理を行っている。嚥下状況に応じてトロミ剤、エンシュア等の栄養補助食品を利用し支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔衛生を保てるようケアを行っている。 必要な方はスポンジブラシやウェットティッシュを使用し清潔保持をしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄の周期を確認し、可能な限り自立した排泄が出来るよう対応している。	完全に自立している方が3名、終日おむつを使用している方が5名いる。そのほかの利用者はリハビリパンツとパッドを使用し、それぞれの排泄パターンに沿った声掛けと誘導でトイレでの排泄を支援している。夜間は睡眠を優先し、夜間のみ、おむつや容量の多いパッドを使用する利用者もいる。夜間のみポータブルトイレを利用する方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食生活や水分に注意し、便秘を予防している。 排便困難な時は主治医に相談し薬剤の処方・調整を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴の周期はあるが、体調や希望に合わせて変更し対応している。 リフト設備があるため、車椅子利用者でも湯船に浸かることができる。	機械浴設備の座面がひとつしかないため、3階は午前、2階は午後、と交代で使用している。フロアにより入浴時間は異なるが、利用者は週2回、入浴している。車いすや寝たきりの方であっても座位が保てる方はリフトを使って湯舟に浸かることができる。浴槽の湯はかけ流しである。同性介助の希望があれば対応している。菖蒲湯や柚子湯を楽しんでいる。好みのシャンプーや石鹸等を使う方もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調に考慮しながら痛みや疲れが出やすい方にはベッドで休んで頂く時間を設けている。 また生活習慣に合わせて、消灯時間は設けず自分のペースで眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服とその効果についてスタッフ間で共有し把握に努めている。処方の変更になった際は介護アプリで情報共有、変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクにてそれぞれの希望や個性に応じた楽しみ事を提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調に考慮しながら、ご家族の協力を得て外出できるよう支援している。	天気の良い日には、時折車いすの方等と一緒に近くの境川に沿って散歩をしている。介護度が進んで外出が難しくなっている利用者も多く、人工芝を敷いたベランダで外気浴を楽しんでいる。平塚の七夕祭りには複数の利用者が車で出かけた。家族と一緒に自宅に戻ったり、誕生日に外食をする方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいで2万円施設にて預かっており、本人が希望したものを近隣のスーパーで購入する等している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をかける機会はないが、手紙やLINEを通じたテレビ電話などでやり取りができる用支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた掲示をしたり、動揺や昭和の音楽を流し、心地よい空間を作っている。	リビング、廊下、トイレ、風呂場、居室全てが広くゆったりした作りになっている。リビングの窓は大きく採光がよい。食卓テーブルの他に3人掛けのソファを3つ置いて、利用者は好きな場所で新聞を広げたりテレビを見たりして過ごしている。職員と一緒に歌詞カードを見ながら懐かしい歌を唄っている方々もいる。カウンターキッチン内で食事の準備や片付けをしながら、利用者を見守ることができる。壁や廊下には、利用者と職員が一緒に作った季節の折り紙や歌の歌詞を掲示したり、利用者の作品を展示している。職員が午前中に掃除機がけを、夜間にモップ掛けやトイレ掃除を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内をいくつかの場所に分け、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはお好みのタンス・ぬいぐるみ・テレビ・家族写真など持ち込まれ、混乱せず落ち着ける空間で過ごしていただいている。	居室には、エアコン、照明器具、クローゼット、カーテン、ベッドが備えられている。利用者は広めの居室にチェストやテーブル、椅子、テレビ、使い慣れた寝具等を持ち込み、思い思いに鏡、造花、ぬいぐるみ、時計、写真等を飾っている。居室入り口には法人の系列会社が廃材で作ったネームプレート掲げて、自室をわかりやすくしている。転倒防止のためにセンサーマットを敷いている利用者が複数名いる。居室の清掃は、主に職員が行っているが、廊下に「みんなの掃除機」を置いて、家族も一緒に掃除してもらえるようにしている。衣替えは家族や職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物畳み、掃除等の家事の手伝いをしてもらいながら、可能な限り自立した生活が送れるよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム「へいあん片瀬時宿」

作成日

令和8年7月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	I-2	管理者不在時期もあり一時的に地域との交流が途絶えたままとなっている。	地域交流の場を増やし地域との繋がり、地域の一員として暮らし続けられるような機会を増やしていく。	運営推進会議のご案内 地域交流会等へ積極的に参加していく。	R8年度
2	III-35	災害対策訓練として、避難訓練を実施しているが夜間想定訓練が出来ていない。	と夜間想定訓練を実施	本年度、夜間想定避難訓練を夜勤スタッフとともに計画書作成し、実施に向けて防災設備会社や消防予防課の協力を得ながらリアル想定訓練を実施する。	R8年度
3	I-12	個々の労働条件や、やりがいをもとめて働いているか面談の機会を設けられていない。	就業環境の整備	アンケート調査を実施し現場の意見が吸い上げ、定期面談を実施し、働きやすい環境を作りを実施する。	R8年度
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。